



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 教授

川越 孝洋 Kawagoe Takahiro

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: 架け橋期・切れ目のない発達支援・保育者/教員・職能成長

研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

これまで学校現場や教育行政において責任ある職を務めつつ、現状を見極め、常に「今何をすべきか」という課題認識のもと実践研究を積み重ねてきた。そのテーマの一つが就学前施設と小学校の切れ目ない個に応じた保育・教育を実現することである。そのために、保育者や小学校教員が時々の優先課題に対応できるようにしたい。また、教員の専門性を構成する「どのような資質・能力を獲得させるのか」を具体的に提示し、その上で、職能成長を図るために保育者を含む教員の養成教育内容と、その効果的な実践の場を創出したい。特にこれまで教育現場や行政において児童個別の教育的ニーズに応じた的確な指導・支援が受けづらい状況を目にしてきた。その要因として、子どもの教育的ニーズを専門的に的確に捉えきらずに指導すること、小学校教員の資質・能力や協働する組織の脆弱さや限界があること、また、的確に対応する専門的なリーダーがいないことなどが考えられる。

一方、就学前施設における保育者には、療育の必要が見込まれる子どもを可能な限り早期にとらえ、その保護者と面談を重ね、医療機関や療育機関等の諸機関と協働して対応する様子が見られる。この状況に着目し、就学前施設と小学校が、切れ目ない個に応じた保育・教育を実現するために、保育者と小学校教員が専門家や専門機関に繋げる連携協働の質的改善を視野に、近年の課題でもある小学校教員や保育教育職員の魅力減少傾向や離職者を防ぐためにも、その職能成長を促す教育についての提案が急務であると考え。児童生徒の資質・能力育成のために、各教科の特質に応じつつも、学校や地域あるいは児童生徒の発達の現状等を踏まえながら、ICTの活用を通じた教育課題の解決と効果的な利用促進を図りたいと考えている。「一人ひとりの児童の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」を目標に、学校の日常において、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に向けて、より実践的な分かる喜びと効果の上がる教員の働きかけ、教材の開発に努めている。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

令和5年に国の新たな教育振興基本計画(令和5年度～9年度)が公表された。

まさに今後我が国の教育が向かうべき羅針盤である。そのコンセプトは、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」である。

こうした国の動向から本学科では、本学の実学の精神をより促進する『学びの多様性を支え、子どもたちのウェルビーイングを高める教員養成』を社会に発信し、社会的に需要が高まる教員と保育者養成のため、更なる教育の質向上を推進していくことが、何よりの社会貢献であると考えている。

産業界と自治体には、「児童だれ一人取り残さない、新たな保育者・教員の養成プログラムの導入」や、未だに手の届いていない子どもたちの多様な教育ニーズを支える組織機能の在り方と教材の開発、およびその体制づくりを提案していきたい。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「学校組織開発理論に基づく管理職育成型研修のプログラムの開発」
- ・「社会情動的スキルにも着目し、客観的データに基づく個別支援を強化」